

養成校における保育実践力につながる  
子どもの心の動きや育ちを読み取る実践事例による演習の検討  
—小学校以降の育ちに連続している資質・能力を生かして—

三上 佳子\*

滋賀短期大学 幼児教育保育学科

Examination of the Practice by the Practice Example to Read Movement and the Breeding of the Heart of a Child Leading to the Childcare Practice Power in the Training School  
—Taking Advantage of the Qualities and Abilities that Have Continued to Grow Since Care—

Yoshiko MIKAMI\*

Department of Early Childhood Care and Education , Shiga Junior College

抄録：平成29年度に全国保育士養成協議会が実施した「保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究」によると、保育実習Ⅰを通して「子ども理解」が身に付いたと回答した短期大学の学生は、四年制大学に比べ半数を満たなかった。準備の期間が短い1回生に対して、子ども理解等につながる効果的な指導を考えていく必要を感じた。その一つが具体的な実践事例による子ども理解等の具体的な記録の演習である。今回、事例を読み解く視点として「子どもの心の動きを推しはかる視点」と「子どもの育ちを見取る視点」を掲げた。特に育ちを見取る視点では2018年の改訂で示された「幼児教育において育みたい資質・能力の基礎」が、小学校以降の各教科等の目標・内容にも連続していることに着目し演習方法に取り入れた。その結果、1回生が実践事例による演習を通して、子ども理解や資質・能力の基礎を踏まえた子どもの育ちへの理解が進み、記録の気づき等の記述に生かせることが見えてきた。

キーワード：育みたい資質・能力の基礎，心の動き(子ども理解)，育ちの見取り(発達理解)

## 1. はじめに

平成29年度に全国保育士養成協議会が実施した「保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究」によると、保育実習Ⅱでは短期大学や四年制大学等ともに「子ども理解や発達理解」の項目は、3割

---

\* E-mail: [y-mikami@sumire.ac.jp](mailto:y-mikami@sumire.ac.jp)

近い学生が身についたと回答している。(図1)しかし保育実習Ⅰになると、短期大学の学生は四年制大学に比べ、半数を満たないことが示されており、改めて効果的な指導内容を考えていく必要を感じた。(図2)

1 回生は演習の事例を通して、様々な子どもや保育の場面に間接的に出会う。子どもや保育者の言動だけでなく、「子どもや保育者がどのような心もちでいるのか」「何が育っているのか」「その要因は何なのか」をみていくことが保育実践力につながっていくと考えられる。そこで本稿では、子どもの言動や表情等から心の動きを推し量る視点とともに、「育みたい資質・能力の基礎」を生かした子どもの育ちを見取る視点の演習に着目し、1回生の気づき等の記述に生かしていきたい。

(図1) 園・施設の役割・子ども理解に関する項目

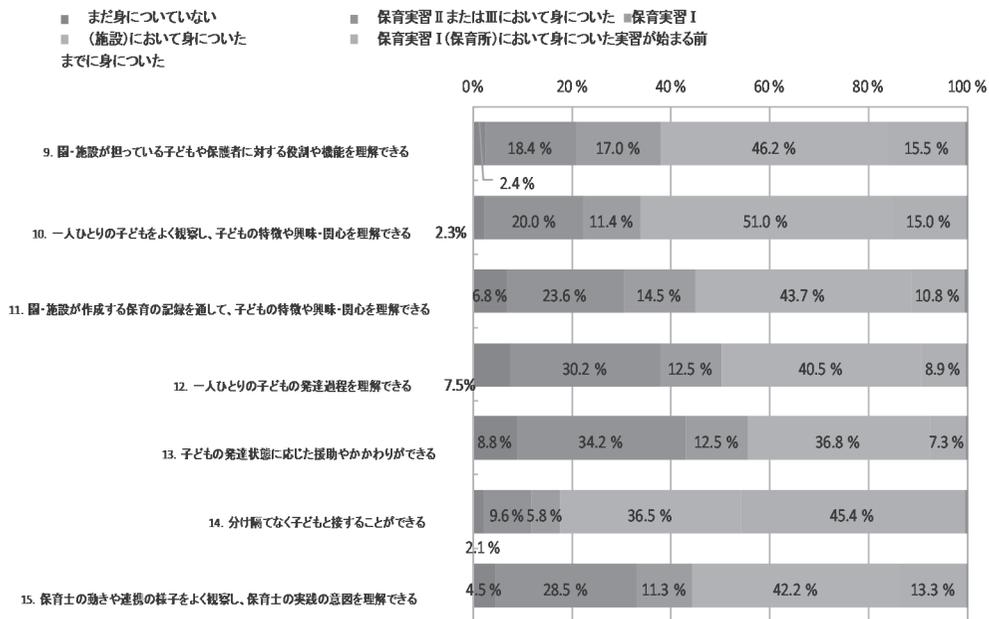
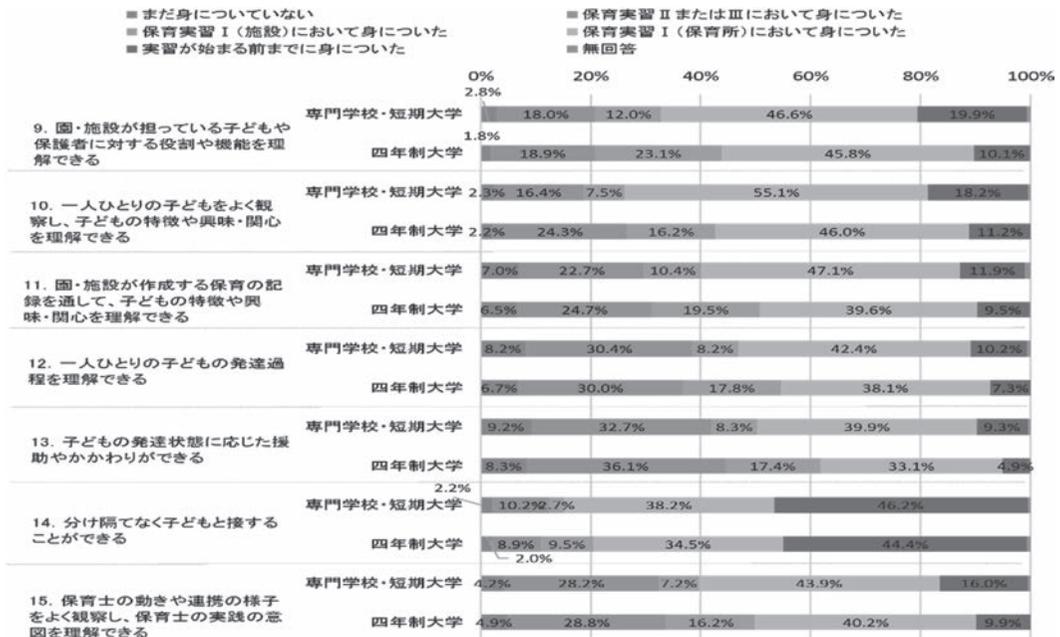


図 1-2-10 「園・施設の役割・子どもの理解」に関する項目

(n=1092)

(図2) 園・施設の役割・子ども理解に関する項目(短期大学等と四年制大学との比較)



## 2. 子どもの育ちを見取る「育みたい資質・能力の基礎」について

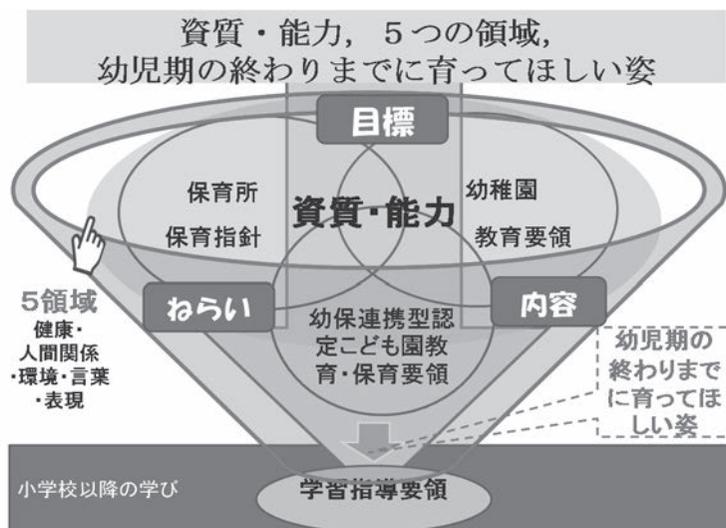
### 2.1 「育みたい資質・能力の基礎」と「5つの領域」・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連性

子どもの育ちを見取るキーワードになるのが、「育みたい資質・能力の基礎」である。今回の改訂では、「幼稚園教育要領」<sup>2)</sup>「保育所保育指針」<sup>3)</sup>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」<sup>4)</sup>において、新たに「育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。従来に引き継ぎ示された5つの領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して「育みたい資質・能力」が育まれていく。そして「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児教育の修了時の具体的な姿であり、それらは総合的に含まれている。

(図3)は総合的に関連し合っていくことをイメージするために、幼児教育を大きなカップとし小学校以降の教育に注がれていくと捉えた。カップの中にある小学校以降に一貫して連続していく柱を「育みたい資質・能力」と考えた。そして図にある小学校へと注がれていく5歳児後半、資質・能力が育まれている具体的な姿として位置付けられたのが「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」である。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、5歳児後半に表れるのではなく、3歳児、4歳児の時期から子どもが発達していく方向として表れると捉えられている。

(図 3)



## 2.2 育みたい資質・能力の基礎から小学校以降の教育への連続性

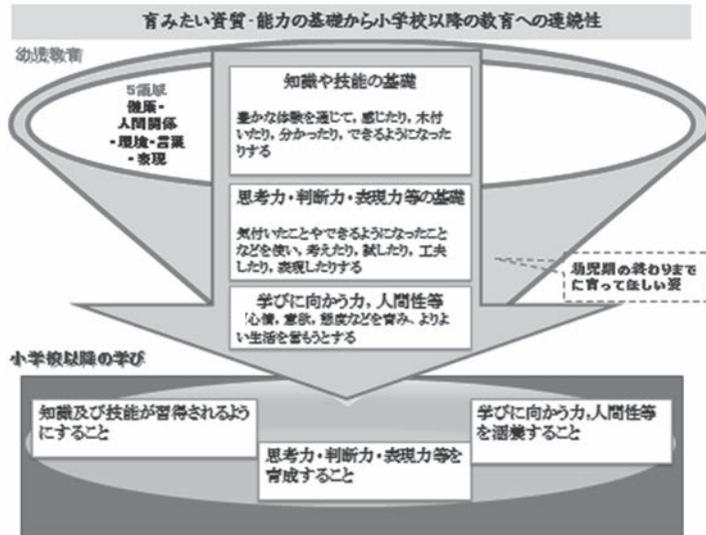
幼児期の育みたい資質・能力の基礎は、遊びを通した総合的な指導の中で一体的に育むものである。一方、小学校以降の教育は各教科の目標・内容を資質・能力の観点から整理して示し(表 1)、各教科等の指導のねらいを明確にしながら教育活動の充実を図っていると記載されている。資質・能力が、幼児教育から小学校以降の教育へ柱として一貫していることを十分理解していくことが大切である。(図 4)文部科学省「幼児教育部会における審議の取りまとめ」<sup>5)</sup>では、資質能力の具体的な内容について 5つの領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿から、主なものを取り出し便宜的にわけ、下記(表 1)のように示している。これは、指導のねらい及び経験させたい内容とも関連している。

(表 1)

|  |
|--|
| <p>①知識・技能の基礎・・基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得, 身体感覚の育成, 規則性・法則性・関連性等の発見, 様々な気付き・発見の喜び, 日常生活に必要な言葉の理解, 多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得 等</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の基礎・・試行錯誤・工夫, 予想・予測・比較・分類・確認, 他の幼児の考えなどに触れ, 新しい考えを生み出す喜びや楽しさ, 言葉による表現・伝え合い, 振り返り・見通し, 自分なりの表現, 表現する喜び 等</p> |
|--|

③学びに向かう力・人間性・思いやり, 安定した情緒, 自信, 相手の気持ちの受容, 好奇心・探究心, 葛藤・自分への向き合い・折り合い, 話し合い・目的の共有・協力, 色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚, 自然現象や社会現象への関心 等

(図4)



### 3. 子どもの心の動きや育ち（育みたい資質・能力を読み取る実践）

#### 3.1 子どもの心の動きを推し量る視点と育みたい資質・能力から育ちを見取る視点で事例をみる

##### (1) 子どもの心の動きを推し量る視点と気づき（環境・人・コト等から）・演習1

① DVD 視聴した後, 子どもの姿や保育者の関わり等の言動の記述だけでなく, 「子どもや保育者がどのような心もちでいるのか」を観ていくために, <子どもの心のつぶやき>や<保育者の心のつぶやき>の記述欄を設ける。(表2)

②隣の学生と互いの子どもや保育者のつぶやきの記録を見せ合い, 子どもや保育者の心の動きを対話し, 心もちを意識化できるツールとして「喜怒哀楽シール」を活用する。

子どもや保育者の心の動きを推し量ることは困難なことも多い。しかし子どもの気持ち理解をしていく上で, 一番大切になってくるため, 「喜怒哀楽シール」を活用し, 学生同士が対話することで, 感情の見える化を図る。



(2) 育みたい資質・能力から育ちを見取る視点と気づき（環境・人・こと等から）・・・**演習2**

①気づきを更に深め観ていくために「何が育っているのか」「その要因は何なのか」につながるよう、《育ちを読み取る》《育ちを支える環境・援助》の記述欄を設ける。（表3）

②育ちの見取りへの理解につながるよう、教員と対話しながら《育ちを読み取る》に「資質・能力シール」を貼る。

「資質・能力シール」を活用することで、子どもの育ちには、資質・能力の基礎が含まれており、また保育者の育ちへの願いやねらい・内容と関連していることを知る機会にもなると考えた。

知技

思判表

学人

(3) 実践事例(DVD)を通した演習例・・・2歳児7か月 **園庭での遊び・・・トラブル(だめ)の場面**

今回の演習で取り入れたのは、考える力・意欲・関わる力が育つ保育「かなちゃんの0歳児から3歳児までの成長記録より」<sup>6)</sup>のDVDである。このDVDは、保育者が安心して生活できる環境を保障し、子どもの力を信頼して丁寧な保育をしており、「考える力」「意欲」「かかわる力」「優しさ・思いやり」が育まれている。学生が、一人の子の成長を保育場面から観ていくことは、子どもの気持ち理解や育ちの見取り・要因を考える機会になると考えた。

「かなちゃんの0歳児から3歳児までの成長記録より」トラブル(だめ)の保育場面より

① その日のねらい 知識・技能の基礎⇒**知技** 思考力・判断力・表現力の基礎⇒**思判表**  
遊びに向かう力・人間性等⇒**学人**

- ・園庭で、好きな遊びをしながら、体を動かすことを楽しむ。**思判表**
- ・友達や保育者と遊ぶ中で、自分の思いを出したり、いろいろな気持ちに触れたりする。**学人**

② 経験させたい内容

- ・三輪車等で遊んだり、園庭を歩いたり、走ったりして体を存分に動かす。**知技** **思判表**
- ・身近な友達や保育者と一緒に行動したり、ものを見つけたりする中で、自分の思いを出すとともに、友達の気持ちに触れる。**学人**

③ 環境

- ・身近な友達や保育者と一緒に体を存分に動かして遊べるように、遊具等を出しておく。
- ・園庭の自然の中で、保育者や友達と一緒に存分に心も体を動かしていけるように、場を保障していく。また安全に遊べるように整理しておく。

④ 援助

- ・園庭で体を動かすことが楽しめるように、保育者も一緒に走ったり、歩いたりして遊ぶ。
- ・一人一人の興味や関心を見守り、共感しながら遊びを一緒に楽しむようにする。
- ・友達との取り合いなどのトラブルになった時は、悲しい気持ち等を十分受け止めるとともに、互いの気持ちを伝えながら見守っていく。

トラブル(だめ)の内容

かなが三輪車に降りてみひろと一緒に庭を行こうとする。はなえも行こうとするとみひろがはなえを押し、はなえが泣く。保育者(T)が止めに入る。T「かなちゃんとみーくんで行くんだっの?」みひろが「だめ!かなちゃんと、みーくんと」 T「はなちゃん、行きたかったんだね」 みひろ「だめ!」 T「一緒に行きたいよね」みひろ「・・・」。

そこに、ひろかずもやってきて一緒に行こうとする。みひろ「ひろくんもだめ!みーくんとかなと一緒に行くの」 T「そーなの?ひろくんも行きたいね」 かなとみひろは、行ってしまう。Tは、ひろかずとはなえに「二人で行こうってちょっと話していて。だから二人で行くから待っててなのかな?」 みひろがこける。遠くから T「大丈夫?」かながみひろを起こして一緒に行く。Tは戻ってきた二人に「二人で待っているんだけど…」と言う。かな「だめ!」また二人で走っていく。しばらくしてかなは、みひろがついてきていないことに気づいて戻る。みひろは保育者とはなえやひろかずをじっとみている。そしてみひろは、はなえとひろかずのところに戻り、2人の手をとって一緒に行こうとする。それを見ていたかなも4人で一緒に行くことを受け入れる。  
(保育者・・T)

(4) 演習1記録例・・子どもの心の動きを推し量る視点と気づき(環境・人・コト等から)

2歳児7か月 園庭での遊び・・トラブル(だめ)の場面(表2)

(子どもや保育者のつぶやきをみてみましょう) かな・みひろ・ひろかず・はなえ

(表 2)

| 組 学籍番号 氏名〇〇〇〇 令和元年 月 日( )  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| 考察・気づき   | 子どもの活動   | 保育者のかかわり(T)   | 考察・気づき   |
| <p>①&lt;&lt;子どもの心のつぶやき&gt;&gt;<br/>どのようなことを思ったり、考えたりしている？</p> <p>みひろ『かなと一緒に<br/>行きたいから、誰も嫌<br/>かな『みひろと一緒に<br/>いい・・・』<br/>はなえ『ただかかれて痛<br/>い』『一緒に遊びたい<br/>な』</p> <p>みひろ『絶対一緒に遊<br/>ばない。来ないで』<br/>はなえ・ひろかず『何<br/>で遊びたいのに』<br/>はなえ・ひろかず『遊<br/>びたいな。楽しそう』<br/>みひろ『待っていてく<br/>れている。どうしよ<br/>う・・・』<br/>みひろ『一緒に行って<br/>もいいか』等<br/>かな『これはなちゃん<br/>にあげよ』<br/>みひろ・かな・はなえ・<br/>ひろかず『楽しいな!』</p> <p>喜怒哀楽シールを<br/>貼る。</p> | <p>かなが三輪車に降りてみひろ<br/>と一緒に庭を行こうとする。み<br/>ひろがはなえを押し、はなえが<br/>泣く。</p> <p>みひろが「だめ!かなちゃん<br/>と、みーくんと」二人で遊ぶ。</p> <p>ひろかずもやってきて一緒に<br/>行こうとする。</p> <p>みひろ「ひろくんもだめ!みー<br/>くんとかなと一緒に行くの」</p> <p>かなは、みひろがついてきてい<br/>ないことに気づいて戻る。</p> <p>みひろは、はなえとひろかすの<br/>ところに戻り、2人の手をとっ<br/>て一緒に行こうとする。かな<br/>はなえに木の実をあげる「これ<br/>はなちゃんに」<br/>4人で散歩に出かける。</p> | <p>保育者(T)が止めに入る。「Tか<br/>なちゃんとみーくんで行くん<br/>だったの?」</p> <p>T「はなちゃん、行きだかた<br/>んだね」</p> <p>T「一緒に行きたいよね」</p> <p>T「そーなの?ひろくんも行<br/>きたいね」かなとみひろは、<br/>行ってしまふ。<br/>T はひろかずとはなえに<br/>「二人で行こうってちよっと<br/>話してて。だから二人で行<br/>くから待っててなのかな?」</p> <p>Tは戻ってきたかな・みひろ<br/>に「二人で待っているだけ<br/>ど…」と言う。</p> | <p>②&lt;&lt;保育者T(学生t)の心のつぶやき&gt;&gt;<br/>どのようなことを思ったり、考えたりし<br/>ている？</p> <p>『手は出すことはよくないな!<br/>でも、そんなにいやなんだよ<br/>ね』<br/>『うーん、どうしたらいいんだ<br/>ろ』</p> <p>『二人の気持ちを少しでも届く<br/>といいな!』<br/>『かなとみひろが意地悪してい<br/>ると捉えてほしくないな』</p> <p>『あ!受け入れた。嬉しいな』</p> |
|  | <p>本日の実習から学んだこと<br/>事例から学んだことはなんですか？</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者が主語。保育者の言動だけではなく、子どもの言動に対して「～のため<br/>に～する」など。NG「させる」「して<br/>もらう」</li> <li>・保育者の感情(悲しい、困るなど)は記<br/>述しない。</li> </ul>   |  |

(5) 演習 2 の記録・育みたい資質・能力から育ちを見取る視点と気づき(環境・人・コト等から)

2歳児7か月 園庭での遊び・トラブル(だめ)の場面(表 2)

(資質・能力を生かして育ちを読み取りましょう)

経験させたい内容

- ・三輪車等で遊んだり、園庭を歩いたり、走ったりして体を存分に動かす。知技 思判表
- ・身近な友達や保育者と一緒に行動したり、ものを見つけたりする中で、自分の思いを出し  
たり、友達の気持ちに触れたりする。学人

(表3)

記録の書き方

組 学籍番号 氏名 令和元年 月 日( )

| 考察・気づき ⇒明日のねらい<br>④<育ちを認め取る><br>資質・能力につながる子どもの言動は？   | 子どもの活動   | 保育者のかかわり   | 考察・気づき ⇒明日の環境・援助<br>④<育ちを支える環境・援助><br>育ちを支えたのは環境？友だちや保育者？  |
|--|--|--|--|
| <p><b>例・自分なりの表現⇒</b><br/>「だめ！かなちゃん<br/>と、みーくんと」</p> <p style="text-align: center;">思・判・</p> <p>・葛藤⇒みひろは保育者とはなえやひろかずをじっとみている。</p> <p style="text-align: center;">学・人</p> <p>・相手の気持ちの受容⇒みひろは、はなえとひろかずのところに戻り、2人の手をとって一緒にしようとする。</p> <p style="text-align: center;">学・人</p> | <p>かなが三輪車に降りてみひろと一緒に庭を行こうとする。はなえも行こうとするとみひろがはなえを押し、はなえが泣く。</p> <p>みひろが「だめ！かなちゃんと、みーくんと」</p> <p>みひろ「だめ！」みひろ「…」。そこに、ひろかずもやってきて一緒にしようとする。</p> <p>みひろ「ひろくんもだめ！みーくんとかなと一緒に行くの」</p> <p>みひろがこける。かながみひろを起こして一緒に行く。</p> <p>かな「だめ！」また二人で走っていく。しばらくしてかなは、みひろがついてきていないことに気づいて戻る。みひろは保育者とはなえやひろかずをじっとみている。そしてみひろは、はなえとひろかずのところに戻り、2人の手をとって一緒にしようとする。それを見ていたかなも4人で一緒に行くことを受け入れる。</p> | <p>保育者(T)が止めに入る。T「かなちゃんとみーくんで行くんだっけ?」</p> <p>T「はなちゃん、行きたかったんだね」</p> <p>T「一緒に行きたいよね」</p> <p>T「そーなの？ひろくんも行きたいね」かなとみひろは、行ってしまおう。Tは、ひろかずとはなえに「二人で行こうってちょっと話していて。だから二人で行くから待っててなのかな?」</p> <p>遠くからT「大丈夫?」</p> <p>Tは戻ってきた二人に「二人で待っているんだけど…」と言う。</p> | <p><b>例・保育者が丁寧に気持ちを伝えた。又はなえやひろかずがかなとみひろが意地悪でしていると捉えないように伝えている。</b></p> <p>・環境が自然の庭やゆったりとした時間の保障によって、みひろ達は、自分達で納得して受け入れることになった。</p> |
| <p>本日の実習から学んだこと 事例から学んだことはなんですか？</p>   |  |  |  |

(表1)再掲

|   |
|---|
| <p><b>育みたい資質・能力の具体的な育ち</b></p> <p>①知識・技能の基礎・・・基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得，身体感覚の育成，規則性・法則性・関連性等の発見，様々な気付き・発見の喜び，日常生活に必要な言葉の理解，多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得 等</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の基礎・・・試行錯誤・工夫，予想・予測・比較・分類・確認，他の幼児の考えなどに触れ新しい考えを生み出す喜びや楽しさ，言葉による表現・伝え合い，振り返り・見通し，自分なりの表現，表現する喜び 等</p> <p>③学びに向かう力・人間性・・・思いやり，安定した情緒，自信，相手の気持ちの受容，好奇心・探究心，葛藤・自分への向き合い・折り合い，話し合い・目的の共有・協力，色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚，自然現象や社会現象への関心 等</p> |
|---|

(6) 記録・実習記録簿との連動

子どもの心の動きを推し量る視点《子どもの心のつぶやき、保育者の心のつぶやき》と育みたい資質・能力から育ちを見取る視点《育ちを読み取る》《育ちを支える環境・援助》を実習記録簿の気づきの記述に生かす。

(表 4)

|   |             |        |                   |   |        |       |     |
|---|-------------|--------|-------------------|---|--------|-------|-----|
| 回生  |             | 学籍番号   |                   | 氏名  |        | 部分    |     |
| 7 実習記録  |             |        |                   | 実習第 日 日【一日の中の部分に着目した保育記録】                 |        |       |     |
| 月   | 日           | 曜日     | 天気                | 指導者                                       |        | 先生    |     |
| 組   | 歳児          | 名      | 出勤                | 時   | 分      | 退出    | 時 分 |
| 本日  |             | ねらい    |                   | 主な内容                                      |        | 実習の目標 |     |
| 時間  | 環境を構成するポイント | 子どもの活動 | ○保育者の関わり（援助・配慮事項） |   | 考察・気づき |       |     |
| 事例を記入<br>育ちを読み取る例自分なりの表現・葛藤・相手の気持ちの受容が明日のねらいに反映<br>○身近な友達や保育者と一緒に行動したり、ものを見つけたる中で、自分の思いを出したり、友達の気持ちに触れたり受け入れたりする。学入 |             |        |                   | ①《子どもの心のつぶやき》どのようなことを思ったり、考えたりしている？       |        |       |     |
|   |             |        |                   | ②《保育者T（学生t）の心のつぶやき》どのようなことを思ったり、考えたりしている？ |        |       |     |
| ④《育ちを支える環境・援助》が、明日の環境を構成するポイントに反映   |             |        |                   | ③《育ちを読み取る》資質・能力につながる子どもの言動は？              |        |       |     |
|   |             |        |                   | ④《育ちを支える環境・援助》育ちを支えたのは環境？友だちや保育者？         |        |       |     |
| 本日の実習から学んだこと  |             |        |                   |   |        |       |     |
| 園の先生のご指導・所見   |             |        |                   |   |        | 印     |     |
| 滋賀短期大学  |             |        |                   |   |        |       |     |

#### 4. 考察

学生が考察・気づきに必要「子どもや保育者の心のつぶやき」では、下記のように相手の気持ちに思いを寄せたり、学生自身の感情と重ねて具体的に記述するようになった。また「資質・能力を踏まえた育ち」や「育ちを支える環境・援助」についても、資質・能力の基礎の具体的な内容を手掛かりに言動を記述することで、育ちや環境・援助とのつながりを意識するようになった。

喜怒哀楽シールや資質・能力シールの活用については、「子どもの心の動きを推し量る視点」と「育みたい資質・能力から育ちを見取る視点」の見える化となり、学生同士が対話しながら自身の見落としがちな視点等についても振り返る機会となった。

増田(2014)は、津守真『保育者の地平』を引用し、子どもの行動はどれ一つとして意味がないものはない。日々の保育の中で「一人一人の子どもの今、このとき」をもとに丁寧に子どもと関わり、子どもの多様な表現の意味を読み取り、応答しながら保育を創造し、成長していく学生であってほしいと述べている<sup>7)</sup>。今回の演習がこれから、実践の中で実際に出会っていく子どもの気持ちや育ちに心寄せていけるように、授業をすすめたい。

##### ①子どもの心のつぶやきについて

- ・子どもの言動から一人に焦点を当て、気持ちを時系列で記述する。

K児・・・『二人で遊びたい→邪魔されたくない→M児来ないどうしたんだろう→一緒に行ってもいいかな→一緒にいくと楽しいな。』

H児・・・『なんで入れてくれないの!→私も遊びたい。楽しそうだな→え?いいの?→楽しい!』

- ・同じ場面に登場してくる一人一人の気持ちを整理して記述する。

H児・・・『M児にたたかれ悲しい気持ちになる。』『M児・・・K児と一緒に遊びたい。H児とは遊びたくない。』『K児・・・M児と一緒に散歩したい』

##### ②保育者の心のつぶやきについて

- ・保育者の葛藤している思いも推し量り記述する。

保育者・・・『うん、どうしたらいいんだろ→二人の気持ちを少しでも届けたい!』

- ・保育者のつぶやきの中に自身の気持ちを合わせて記述する。

学生・・・『どっちを優先したらいいんだろ・・・』『一人一人の気持ちを聞こう!』

##### ③「資質・能力を踏まえた育ち」や「育ちを支える環境・援助」について

- ・「資質・能力を踏まえた育ち」では、資質・能力の基礎の具体的な内容を視点に下記のように子どもの言動を記述する。

「だめ!かなちゃんとみーくんと。」など自分の思いを出している(自分なりの表現)や、待っている友だちのことが気になりじっとみている(葛藤)、友達と手をつなぎ一緒に散歩に行く(相手の気持ちの受容)。

・「育ちを支える環境・援助」では教員と対話をしながら、保育者が丁寧に一人一人の気持ちを伝えることや、園庭という環境や時間の保障が気持ちの変化を生み出すことを記述する。

## 5. 成果と今後に向けて

実践事例の中で、子どもの言動を推し量る視点での気付きは子どもの気持ち理解につながり、育ちを見取る視点の気付きは資質・能力の基礎とのつながりの意識化にもなった。今後、記録が明日の指導のねらいや子どもの興味・関心に応じた活動・教材等の指導計画にもつながっていくように、他の授業や滋賀短期大学附属幼稚園や次年度開設される保育園と連携し、指導に生かしていきたい。無籐・大豆生田は、新しい指導計画の考え方として、日々子どもが何に興味・関心をもっているかに着目する計画が大事であり「子どもの姿ベース」が保育を楽しくすると述べている<sup>8)</sup>。保育者養成校で子どもと向き合う実践を重ね、学生自らが保育の楽しさが見出していけるように、指導を検討していきたい。

## 謝辞

本研究は保育内容総論や実習指導において、実践事例の読みやねらい・内容への理解等課題解決に向け検討をした。本研究を遂行するにあたって、本課の前川頼子教授・久米央也准教授や永久特任教授や浜崎由紀特任助教をはじめ、関係教員にも協力をいただいたことに、深く御礼申し上げます。

## 文献・ビデオ

- 1) 小原敏郎 2019年保育士養成研究所第一回会研修会 全国保育士養成協議会「保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究」 四年制大学7校493名、短期大学4校496名、専門学校2校103名合計1092名 対象はすべて卒業生の学生。2019年7月7日
- 2) 幼稚教育要領解説 文部科学省 P50-P73 2018年3月
- 3) 保育所保育指針解説 厚生労働省 P60-P83 2018年3月
- 4) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣省 文部科学省 厚生労働省 P48-P67 2018年3月
- 5) 文部科学省「幼児教育部会における審議の取りまとめ」2016年8月26日
- 6) ビデオライブラリー考える力・意欲・関わる力が育つ保育「かなちゃんの0歳児から3歳児までの成長記録より」トラブル(だめ) 東京家政大学ナースリールームにて 新宿スタジオ 2012年

三 上 佳 子

- 7) 大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田真由美 保育内容総論 ミネルブア書房 P216 2014年3月  
8) 無藤隆・大豆生田啓友 新しい指導計画の考え方 2019年6月27日 フレーベル館 P10～P17

\*この研究は滋賀短期大学研究倫理委員会の審査を受け了承済です。